

特集
すいよう



8日、ベルリンでの国際女性デーのパレードに参加する若者たち（吉本博美撮影）

ジェンダー平等 世界の今

女性議員増 変革の力



「女性に投資を。前進をさらに加速させよう」—今年の国際女性デーにあたり、国連が掲げたスローガンです。社会のあらゆる分野でジェンダー平等を達成することは、公正で平和な社会実現の土台となるものです。国民生活に大きな影響を与える各国議会はどうか。女性議員の比率は前進していますが、さらなる加速が必要です。

（鎌塚由美）

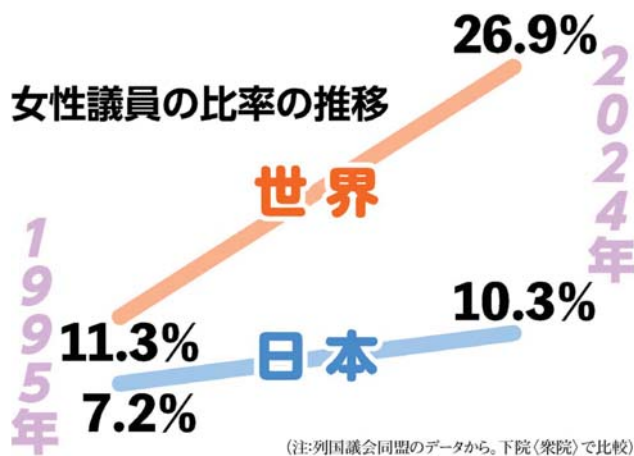
1995年に北京で開催された国連世界女性会議には、約190カ国から約5万人の女性が結集し、ジェンダー平等を目指す取り組みの指針「北京宣言」と「行動綱領」を採択しました。来年は、北京会議から30年の節目の年です。

この間、世界各国で女性の政治参加は着実に進んできました。各国の議会に占める女性議員の割合は、11.3%（24年1月）に増加。女性議員が50%を超える国は、ゼロから6カ国に。列国議会同盟が公表する「議会の女性ランキング」（国際比較のため、下院議席（衆院）の議席）では、上位に名を連ねる諸国は、欧州中心から、新興・途上国の「グローバルサウス」に移行しています。

日本はどこまで進んでいるか。国会では、女性議員はわずか10.3%。186カ国中165位と大きく立ち遅れています。世界経済フォーラムによる「ジェンダーギャップ指数」（23年）でも、145カ国中125位で、政治・経済分野の遅れが際立っています。

世界では、紛争や気候変動、ジェンダー平等の取り組みなど、この数十年にわたる前進を振り返る後退が各地で生まれる状況のなか、今年、米国大統領選やインド総選挙をはじめ世界各地で選挙が行われる「選挙イヤー」と言われています。

UNウィメンは、「世界人口のほぼ半数が選挙のある国に住んでいる」と述べ、「私たちが望む未来を決める重要な好機」と今年の国際女性デーの意義を指摘しました。



持続可能な発展への道筋

ルワンダ 比率61%
世界トップ



（駐米ルワンダ大使館提供）



に、意思決定機関に占める女性の割合を30%以上にする」と明記し、クオータ制を導入しました。クオータは、女性の政治参加を増やす触媒となっています。

女性は紛争で最大の苦痛を強いられました。私たちは平和構築のプロセスに女性を参加させましたが、それは団結を強め、和解を進める上でも極めて重要なことでした。

地域社会が何を必要としているのか、女性には独自の視点があり

ます。教育や福祉などの政策は、包括的で効果的なものになりました。職場でのハラスメント、平等な賃金、暴力などの分野でも積極的な変化をもたらしています。

女性の可能性を無視することは、変革を促す大きな力を除外することを意味します。社会のすべての分野で女性の力を認め、十分に生かすことは、単に原則だからというだけでなく、持続可能な発展への道筋であることをルワンダの経験は明らかにしています。

マチルデ・ムカンタバナ駐米大使

1994年に80万人が犠牲になった大虐殺を経験し、女性が国の再建の柱になってきたアフリカ中部ルワンダ。現在では国会議員に占める女性比率は世界トップです。同国の駐米大使、マチルデ・ムカンタバナさんに聞きました。

（ワシントン＝石黒みずほ）

◇

人口の半分を占める女性を意思決定の場から除外しては、社会自体が前進できない。世界でも高い女性比率を達成した背景には、強い政治的意思がありました。

ルワンダは2003年制定の憲法

▼世界の女性議員比率ランキング

順位	国名	比率	クオータ制あり
1	ルワンダ	61.3	☑
2	キューバ	55.7	
3	ニカラグア	53.9	☑
4	メキシコ	50.4	☑
5	アンドラ	50.0	☑
〃	アラブ首長国連邦	50.0	☑
7	アイスランド	47.6	☑
8	コスタリカ	47.4	☑
9	スウェーデン	46.7	☑
10	ボリビア	46.2	☑
11	セネガル	46.1	☑
12	フィンランド	46.0	
〃	南アフリカ	46.0	☑
14	モナコ	45.8	
15	ニュージーランド	45.5	☑
16	デンマーク	45.3	
17	ノルウェー	44.4	☑
18	スペイン	44.3	☑
19	ナミビア	44.2	☑
20	モザンビーク	43.2	☑

～中略～



8日、アルゼンチンの国会前で国際女性デーのデモに参加する人々（リブ・エヌ・ス・アイレス（ロイター））

162	リベリア	11.0
163	ナウル	10.5
164	シリア	10.4
165	日本	10.3
166	ギニアビサウ	9.8
167	フィジー	9.1
168	ガンビア	8.6

クオータ制

女性議員ランキングの上位20カ国のほとんどが、議員の男女間の格差是正を目的とするクオータ制（▽議席割当制▽法的候補者クオータ制▽政党による自発的クオータ）を採用し、着実に前進させています。95年の時点で、法制化されたクオータ制を導入していた国はわずか2カ国（アルゼンチン、ネパール）にとどまっていた。

世界各地で女性比率を飛躍させる効果を発揮しており、列国議会同盟は、ジェンダー平等への「前進の重要なカギ」（「議会の中の女性」報告書—2020年）と強調しています。